

16 白山信仰



(1) 白山が見えた！

冬の快晴の朝、庄内川の堤防を散歩していると、工場群の隙間から白山らしきと思われる峰が見えました。

「まさか、白山が見えるなんて」と思いながら、確かめるため庄内川向こう岸の丘(龍泉寺山)に登ってみた。

北の方向を見てみると、左手には伊吹山が、右手には御岳山がみえ、真ん中に雪をいただいた白く輝く峰が見えた。日本三霊山の白山だ！

白山はさまざまな峰からなり、石川、福井、富山、岐阜の4県にまたがってそびえる大きな山塊です。

(中心となるのが御前峰^{ごぜんがみね} (2702m)、大汝峰^{おおなんじみね} (2,684m)、剣ヶ峰^{けんがみね} (2,677m) の白山三峰)



子どもの頃は、工場の煙突もなく高層建築もなかったので、小野小学校へ通う田んぼ道からもよく見えたが、最近は何だか見られなくなって、知る人も少なくなった。

白山は独立峰で周りに高い山がないため、北陸、東海、近畿から仰ぎ見ることができ、望見し得る地域は、13府県に及ぶといわれています。

そういえば、松河戸の氏神様は白山神社です。

白山神社は、霊峰白山を御神体とする「白山比咩神社」^{しらやまひめじんじや}の祭神「菊理媛神」^{くくりひめのかみ}を分霊し祭神としています。

「白山神社」(白山社、白山宮)は全国に約3千社近くあるといわれ、岐阜県(約400社)、福井県、新潟県に次いで多いのが愛知県(約200社)で、それから石川県です。

愛知県は白山から遠いにも関わらず山麓の石川県より多いのは、愛知県内の各地から白山を望見することができ、彼方にある白山への憧れから白山信仰者が多かったことによるとされています。

この機会に、白山信仰について、調べてみることにしました。

(2) 白山への憧れ

① 古来からの普遍的な信仰の山

雪を頂き、光を浴びて輝く姿に、古来より人々は白山を「白き神々の座」と信じ崇めてきました。

また、農耕に不可欠な水を供給する山の神、水の神としてだけでなく、日本海を航行する船からも、航海の指標となる海の神として崇められていました。

北陸は、『日本書紀』の時代には「越の国」と呼ばれており、白山はそこにそびえる白き山という意味を込めて、古くは「越のしらやま」と呼ばれていました。



松戸方面から見える白山（龍泉寺山の丘から） 小牧山の上に白雲のように白く輝く白山が見える 令和6年元日の朝

現在、京都市内からは東山や比叡山など高い場所に登らないと白山は望めませんが、神としてあるいは神の住まう処と、平安の都の人々にも広く知られていたことは、和歌や枕草子のような随筆等に登場することからわかります。

現在(令和6年)NHK大河ドラマ「光る君」が放送されており、小野道風没(康保3年966年)後の平安中期(西暦千年頃)頃の話となります。

ちょうど道風公没の年に清少納言が生まれたとされており、清少納言の随筆「枕草子」の巻頭の一説に、「春は曙 ようよう白くなりゆく山際 少しあかりて 紫だちたる雲の細くたなびきたる…」

早春の風情を詠んだ歌で、「白山」という言葉は出てきませんが、白く輝く白山連峰の絶景が浮かんでくるようです。

枕草子には度々白山がでてきますが、雪の段では、雪深い北陸の白山の観音様に向かって、「白山の観音、これ消えさせ給ふな」と雪の山が消えないよう、白山の観音に祈る場面があります。

清少納言は白山を強く信仰していたようで、枕草子が書かれた10世紀末前後における都の貴族の間では、白山は観音の山だと認識されていたことがうかがえます。

清少納言と同時期に生き「光る君」の主人公である紫式部は、生涯で一度だけ都を離れ、父親の国司としての赴任先に同行して越前で1年暮らしたことがあります。



土佐光起画『清少納言図』(部分)



土佐光起画『紫式部』(石山寺蔵)

土佐光起

承応3年に左近将監に命ぜられ、宮廷の絵所預かりとなる。代表作に「巖島松島図屏風」「北野天神縁起絵巻(重文指定)」「紫式部像(重美)」など

その時、国府で和歌に詠まれた3歌が残されていました。

その1つに、越前からの帰り道、琵琶湖の舟から白い雪を頂いた伊吹山をみて、次のような歌を詠んでいます。

「名に高き越の白山ゆきなれて 伊吹の嶽をなにとこそ見ね」

私は評判の高い越の国の白山の雪を見慣れてしまったから、伊吹山がどんなに白くてもたいしたものとは思わない、という内容です。

白山という最高の雪山を見たことで、式部は物事を判断する物差しを得たことでしょう。だからこそ、伊吹山をたいしたことがないと言いきれたと思います。

都にはない暮らしと環境に触れることで、式部は考えを深めることができ「源氏物語」を生み出す原動力となったといわれています。

白山は、平安の都の人々にとっても特別な存在でした。



紫式部の肖像画

日本銀行券の2000円札の裏には小さな肖像画と『源氏物語絵巻』の一場面「鈴虫」などが描かれている。

2千円札は、西暦2000年を記念して発行されたが、2004年以降は増刷されていない。

② 農耕社会の信仰の山へ

白山は山名の由来と同様に、当初は雪をいただいた山、「しらやま」に対する霊山としての普遍的な信仰でしたが、やがて山岳信仰として、河川の水源となる白き神々の座を水神・農耕神として仰ぐ信仰となっていきました。

白山を水源とする水田農耕社会において、加賀手取川・越前九頭竜川・美濃長良川の各流域において、それぞれ独自の白山信仰が形成されていったと思われます。

松河戸の地で、白山神社が創建されるのは後の明応3年(1494年)ですが、その当時まで松河戸は安食荘(醍醐寺領)という荘園の中にあっただけといわれています。

荘園の中で人々は田畑を耕し、一定の日には白山を御神体として神籬を設けて、水神でもあり田の神でもある白山神を迎え祭祀が行われていたのではないかと想像できます。

今ある白山神社の鳥居から見ると、本殿の方向には今は見ることはできませんが、白く輝く白山が見えたことでしょう。

白山

最高峰である御前峰(2702m)、および大汝峰(2684m)・剣ヶ峰(2677m)の三峰からなる主頂部と、南方の別山(2399m)・三ノ峰(2128m)、西方の白山釈迦岳(2052m)などを合わせた総称。主峰三峰を白山三峰、これに別山・三ノ峰を加えて白山五峰というよび方もある。

山頂は石川県南東部、岐阜県境に位置し、山域は石川県の白峰村・尾口村、岐阜県の白川村・荘川村・白鳥町、福井県の大野市・勝山市などにまたがる。

白山山系は南方に続く能郷白山(1617m、岐阜・福井県境山系)とともに両白山地を構成する。

手取川水系・庄川水系の分水嶺であり、山系南部は九頭竜川や長良川の水源となっている。



室堂から望む白山神社と御前峰

(3) 白山信仰の広がり

① 本地垂迹説の感得 泰澄和尚伝記

養老元年(717)、越前(福井県)の僧「泰澄」によって白山が開山されました。

伝承では、奈良時代の修験道僧である泰澄は、白山に登り転法輪の窟において27日間の祈念加持を勤めたところ、足下の翠ヶ池から巨大な龍が現れたという。龍(九頭龍王)の姿が消えると白衣綾羅の唐女のような女神が現れ、自らを伊弉册尊の化身で白山明神・妙理大菩薩と名乗って出現したので拜んでいると、十一面観世音菩薩のお姿になったと伝えられています。



白山権現(仏像図彙)

泰澄は、十一面観音を本地とする妙理権現を感得し、最高峰の御前峰(2702m)に白山比咩神社(奥宮)を建立し白山比咩大神(菊理姫命)を祀ったのが白山信仰の基になりました。

なんと、多くの神仏が出現して混がらありますが、この時に素朴な白山信仰は「神仏習合」の中に組み込まれたこととなり、多くの「修験道」が白山を参拝するようになります。

以来、神々しい神の山は人々の憧れとなり、白山信仰は急速に全国に広まっていきました。泰澄によって、「本地垂迹説」に基づく白山信仰の体系化がなされたこととなります。

平安時代以降、真言宗・天台宗の両教を修めた宗叡は、この白山妙理権現を比叡山延暦寺に遷座し、客人権現として山王七社権現の1つに数えられています。

② 白山三所権現の信仰の定着

奈良時代に入り神仏習合が進み、平安時代以降、本地垂迹説に基づいて本地仏一垂迹神との関係が確立されると白山では御前峰(白山比咩神社奥宮)が伊弉冉神を垂迹神とし、白山妙理大菩薩を号し、本地仏は十面観音としました。

以下同様に大汝峰(大汝神社)は大己貴神(大國主命)を垂迹神とし本地は阿弥陀如来、別山(別山神社)は小白山大行事で聖観音を本地とするという白山三所権現を基本とする考え方が信仰の核心に据えられます。

この神仏の体系は天徳二年(958)に原形が成立したとされる「泰澄和尚伝記」によって確立し

世に広まりましたが、同書には後補・追筆の部分もあり、実際に前述のような三所権現の信仰が定着したのは熊野でした。

	鎮座地	本地仏	白山三所権現	垂迹
白山三所権現	御前峰	十一面観音菩薩	白山妙理権現	イザナミ
	大汝峰	阿弥陀如来	大汝権現	オオクニヌシ
	別山	聖観音菩薩	小白山大行事権現	ククリヒメ

【参考】	鎮座地	本地仏	熊野三所権現	垂迹
熊野三所権現	熊野本宮大社	阿弥陀如来	家都美御子神	スサノオ
	熊野速玉大社	薬師如来	速玉神	イザナギ
	熊野那智大社	千手観音	牟須美神	イザナミ

③ 白山修験道

もともと越前・加賀・美濃という別々の地域で白山に対する信仰が独自に発展していましたが、やがて律令国家の成立にともない地方間の連絡が密になると、共通の信仰を有する人びとがほかの地域にも存在することを認識するようになります。

そして、仏教思想の影響を受けて白山が従来の遥拝する存在から修行の場としての存在へと変化していきます。

「修験道」は神仏習合の信仰であり、古神道に、それらを包括する山岳信仰と仏教が習合し、密教などの要素(山岳修行等)も加味されて平安末期に成立し、役小角(役行者)が開祖とされています。

日本の神と仏教の仏(如来・菩薩・明王)がともに祀られており、表現形態としては、権現(神仏が仮の姿で現れた神)などの神格や王子(童子)(参詣途上で儀礼を行う場所)があります。

「修験道」が最も盛んになるのは、鎌倉から室町時代にかけてであり、熊野や吉野金峯山には、一大修験集団が形成され、白山も修験の山・霊山として全国に名をはせていました。

白山登拝が盛んになると、加賀(石川県)、越前(福井県)、美濃(岐阜県)には、その拠点となる馬場が設けられ、多くの人々で賑いました。白山比咩神社(登拝の拠点)は、加賀馬場の中心として栄え、比叡山延暦寺の末寺として多くの衆徒を擁し、全国に勢力をおよぼしました。

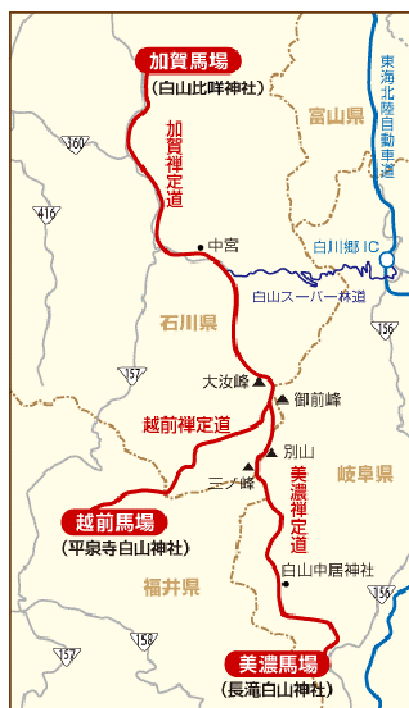
○ 三馬場と三禅定道

泰澄の開山後(養老元年(717))、山岳信仰の高まりから修験道の霊場として登拝する修行僧が増え、修行登山路=「禅定道」として発展していきます。

『白山記』(白山比咩神社所蔵)によれば、泰澄が白山を開山してからおよそ115年後の天長9年(832)には、加賀、越前、美濃に登拝の拠点となる「馬場」が開かれたと記されています。

馬場という呼び方には、白山へ登る際、馬でそこまで行き、馬をつなぎとめておいた場所、あるいは馬がそれ以上進めない神域への入口だからそう呼ばれたという説が残っています。

加賀馬場(石川県)の中心が現在の白山比咩神社、越前馬場(福井県)は現在の平泉寺白山神社、美濃馬場(岐阜県)が現在の長滝白山神社で、山伏のみならず白山の水の恵みを受けて生活する農民から霊峰に憧れる都人まで、多くの人々が馬場から白山を目指しました。



三馬場と禅定道

すはらこう
○ 洲原講

岐阜県美濃市の洲原神社は、白山に詣でる人々が最初に訪れる神社として建てられました。

美濃国における白山信仰の中心的な神社の一つで、白山前宮として、美濃馬場から白山登拝に大きな役割をしてきました。

泰澄大師によって創建されたと伝えられ、農業の神様として有名で、神社の「お砂」を田畑にまけば豊作なるといわれました。

江戸末期に誕生した洲原講は、松河戸でも「お洲原まいり」のための講が組織されていました。

代参として、或いは気の合った者の仲間で、白山比咩神社の前宮である洲原神社(岐阜県美濃市須原)へ、1泊2日の日程か、または日帰り強行日程で五穀豊穰の祈願に出かけました。

第1次世界大戦中に国産自転車の生産台数が増え、昭和に入ると一層普及が進み、自転車による洲原詣も多くなりました。

昭和2年に越美南線が美濃洲原まで開通すると、多治見・美濃太田経由で鉄道を利用した参拝が行われるようになり、昭和38年に国道156号が改修されると、観光バスを仕立てた団体参拝も行われるようになりました。



洲原神社楼門(重要文化財)



洲原神社に残る当時の案内掲示

◎「郷土誌かすがい」に自転車での「洲原神社」参拝時のお話があったので紹介します。



松河戸町の河本鏝一さん(明治40年生)が、太平洋戦争前に、3回から4回自転車で参拝された時のお話し

苗代の済んだ5月上旬頃、会社勤めでなく都合のつく者2人から3人で朝7時頃出発し、夕方暗くなる前に帰宅した。

ルートは、小牧一犬山一鶴沼一勝山一関一美濃一洲原の筋と、内津峠を越えて池田・小泉等を経て現在の国道284号沿いで関に出る道筋を利用したりした。

昼頃神社に着き、参拝をしてお札と「御蔭土(おすな)」を受けた。

その後近くの長良川の川原で弁当のお握りを食べた。途中の店でうどんを食べたこともあった。

祭礼以外の日は鳥居の中まで自転車で行くことができた。

「御蔭土」は自分の苗田に蒔いた。

松河戸町の長谷川良一さん(大正6年生)が、昭和26、27年の頃、苗代の仕事を済ましてから、近所の者同士5人から6人で、小牧・犬山・勝山経由のルートで出かけた時のお話し

かなり長い道のりではあったが現在の美濃市の町並みを抜け、長良川の堤防道路に出ると、顔に当たる春風が心地よく、ペダルも軽く感じられた。

朝7時頃出発し、神社に昼頃到着した。

参拝してお札と「御蔭土」を受け、川原で休憩して昼食をとった。

祭礼ではない日に出かけたので、神社は静かであった。

往きは登り坂が多くてきついが、帰りは下り坂のため少し楽であった。

夕方4時頃小牧に着いて、街道端の居酒屋へ寄った。毎年行く人はこれが楽しみでもあったそうだ。

途中の心配はパンクとブレーキの故障であったが、トラブルはなかった。

「御蔭土」は自分の苗田に蒔いた。